

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第3号
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年7月25日
【中間会計期間】	第101期中（自 2024年11月1日 至 2025年4月30日）
【会社名】	太陽毛絲紡績株式会社
【英訳名】	TAIYO WOOLEN SPINNING CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 内山 正治
【本店の所在の場所】	埼玉県川口市上青木五丁目5番9号
【電話番号】	(048) 265 - 2414(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 太田 仁典
【最寄りの連絡場所】	埼玉県川口市上青木五丁目5番9号
【電話番号】	(048) 265 - 2414(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 太田 仁典
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第99期中	第100期中	第101期中	第99期	第100期
会計期間	自2022年 11月1日 至2023年 4月30日	自2023年 11月1日 至2024年 4月30日	自2024年 11月1日 至2025年 4月30日	自2022年 11月1日 至2023年 10月31日	自2023年 11月1日 至2024年 10月31日
売上高 (千円)	274,563	254,155	249,290	561,396	510,920
経常利益 (千円)	16,257	18,279	15,813	50,937	41,167
親会社株主に帰属する中間 (当期)純利益又は親会社株 主に帰属する中間純損失(△) (千円)	△29,374	18,127	15,660	16,818	44,710
中間包括利益又は包括利益 (千円)	22,892	80,608	23,360	99,116	63,144
純資産額 (千円)	1,663,843	1,815,333	1,814,106	1,740,067	1,797,869
総資産額 (千円)	3,497,497	3,541,816	3,499,395	3,468,224	3,423,158
1株当たり純資産額 (円)	467.14	509.68	509.33	488.54	504.77
1株当たり中間(当期)純利 益又は1株当たり中間純損失 (△) (円)	△8.25	5.09	4.40	4.72	12.55
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	47.57	51.25	51.84	50.17	52.52
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	△8,917	53,761	37,923	50,071	145,524
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,371	△2,821	3,813	△10,577	14,046
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	48,986	△23,093	28,223	△48,021	△119,075
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	90,617	69,362	151,960	41,167	81,999
従業員数 (人)	28 (16)	30 (16)	29 (15)	26 (16)	29 (17)

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第99期中	第100期中	第101期中	第99期	第100期
会計期間	自2022年 11月1日 至2023年 4月30日	自2023年 11月1日 至2024年 4月30日	自2024年 11月1日 至2025年 4月30日	自2022年 11月1日 至2023年 10月31日	自2023年 11月1日 至2024年 10月31日
売上高 (千円)	256,186	236,578	231,788	523,287	473,893
経常利益 (千円)	11,768	15,864	13,863	36,166	30,447
中間（当期）純利益又は中間純損失(△) (千円)	△33,681	15,895	13,893	3,291	36,310
資本金 (千円)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
発行済株式総数 (千株)	3,589	3,589	3,589	3,589	3,589
純資産額 (千円)	1,687,388	1,827,425	1,818,265	1,754,392	1,803,795
総資産額 (千円)	3,518,496	3,553,422	3,500,692	3,479,077	3,426,272
1株当たり純資産額 (円)	473.75	513.07	510.50	492.57	506.44
1株当たり中間（当期）純利益又は1株当たり中間純損失(△) (円)	△9.45	4.46	3.90	0.92	10.19
潜在株式調整後1株当たり 中間（当期）純利益 (円)	—	—	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	—	1.50	2.00
自己資本比率 (%)	47.96	51.43	51.94	50.43	52.65
従業員数 (人)	10	11	11	9	10
(外、平均臨時雇用者数)	(1)	(1)	(0)	(1)	(1)

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動はありません。

3【関係会社の状況】

当中間連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

（1）連結会社の状況

2025年4月30日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
繊維事業	26（15）
賃貸事業	1（0）
全社（共通）	2（0）
合計	29（15）

（注）1．従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数（常用パートを含んでおります。）は、当中間連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

2．全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

（2）提出会社の状況

2025年4月30日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
繊維事業	8（0）
賃貸事業	1（0）
全社（共通）	2（0）
合計	11（0）

（注）1．従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数（常用パートを含んでおります。）は、当中間会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

2．全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

（3）労働組合の状況

労働組合との間に特に記載すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当中間連結会計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について、既に提出した有価証券報告書に記載された内容に比して重要な変更はありません。

また、新たに定めた経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等はありません。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更はありません。

また、新たに生じた事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

2【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社グループの財務状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当中間連結会計期間における当社グループ（当社および連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

①財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、2025年1～3月期国内総生産（GDP）速報値は実質GDPが前期比0.2%減（年率換算0.7%減）となり、4四半期ぶりのマイナス成長となりました。内需においてはGDPの半分以上を占める個人消費は0.04%増となりました。災害時の備蓄需要が一巡したことや物価高による食料品のマイナスもあり、ほぼ横ばいにとどまりました。個人消費に次ぐ民需の柱である設備投資は研究開発やDX投資を中心に前期比1.4%増となるなど、内需全体では0.7ポイント増の成長寄与を示しました。一方外需では、輸出において米国の関税措置前の駆け込み需要により自動車の伸びが一定程度あったものの、ウェブサービス利用料等の広告宣伝費や航空機、半導体関連の輸入増が影響し、外需の寄与度は0.8ポイント減と、2四半期ぶりのマイナスとなりました。あわせて内閣府が発表した2024年度のGDPでは正常化した自動車販売による個人消費の押し上げや企業の設備投資が堅調に推移し、実質成長率は前年度比0.8%増と4年連続のプラス成長となっており、名目GDPも3.7%増の616兆円と初めて600兆円を上回る結果となりました。

2025年4～6月期には米国の通商政策による輸出への下押しリスクや消費者物価上昇率の高止まりから個人消費の低迷、トランプ関税による不確実性の高まりを受けた設備投資の抑制等が想定され、2四半期連続のマイナス成長になると予測されております。また、国際通貨基金（IMF）もトランプ関税の影響で2025年の世界経済の成長率を前回から0.5ポイント下げ2.8%としており、貿易摩擦の激化や金融情勢の急激な悪化リスクも懸念されております。

繊維業界におきましても、米国ではトランプ関税の影響により富裕層による裁量的支出の失速や中国での不動産不況による嗜好品支出の低迷など、世界的にアパレル衣料の需要減退が顕著な状況で推移しております。一方で産業資材分野では自動車産業の成長鈍化の懸念がある一方で機能性繊維や高機能素材への需要の拡大による業績回復が進んでおります。しかし一部の企業では競争激化により、繊維事業からの撤退と生産設備の廃棄を伴う減損損失を計上するという厳しい状況にあります。事業環境には常にサステナビリティを意識した経営が求められるなか、環境負荷の少ない素材や製品の開発が急務となっております。一方で欧州では炭素繊維の自動車への使用規制が議論されるなど、素材機能と価格性能に加え、安全と環境規制との両立が求められております。

このようなグローバル社会の変化が激しく不確実性が高まる経営環境のなか、当社グループは2024年12月に新たに策定した「3カ年中期経営計画」を基軸に、事業収益、財務体質、情報力それぞれの強化を目指すとともに、経営の効率化と変化に即応できる事業体制の構築に努めてまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の財政状態および経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当中間連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末比で76,237千円増加し3,499,395千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末比で68,426千円増加し464,553千円となりました。固定資産は、前連結会計年度末比で7,811千円増加し3,034,841千円となりました。

負債合計は、前連結会計年度末比で60,000千円増加し1,685,288千円となりました。流動負債は、前連結会計年度末比で9,281千円減少し319,201千円となりました。固定負債は、前連結会計年度末比で69,282千円増加し1,366,086千円となりました。

純資産合計は、その他有価証券評価差額金の増加などにより、前連結会計年度末比で16,236千円増加し1,814,106千円となりました。

b. 経営成績

当中間連結会計期間の経営業績は、売上高249,290千円(前年同期比1.9%減)、営業利益13,062千円(同16.1%減)、経常利益15,813千円(同13.5%減)、親会社株主に帰属する中間純利益15,660千円(同13.6%減)となりました。セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

繊維事業は、当社グループの売上高の約6割を占める主力事業であります。

受注高180,758千円(前年同期比6.4%増)、売上高149,808千円(同3.1%減)、セグメント利益千円10,080(同17.1%増)、在庫高265,104千円(前年同期比12.3%減)となりました。

賃貸事業は、売上高99,482千円(前年同期比0.1%減)、セグメント利益41,893千円(同10.4%減)となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動、投資活動および財務活動により得られた資金の結果69,960千円増加し151,960千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は37,923千円(前中間連結会計期間53,761千円の収入)となりました。

これは主に税金等調整前四半期純利益15,813千円、減価償却費22,594千円などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は3,813千円(前中間連結会計期間2,821千円の支出)となりました。

これは主に保険積立金の解約による収入13,841千円、有形固定資産の取得による支出9,826千円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は28,223千円(前中間連結会計期間23,093千円の支出)となりました。

これは主に長期借入金による収入などによるものであります。

③会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

④生産、受注及び販売の実績

当社グループの生産・販売品目は極めて多種多様であり、その生産形態も各事業所で幾多の品目を分担生産し、同種の品目であっても、その生産単位等は様ではなく画一的表示が困難であるため、セグメントごとに生産規模および受注規模を金額あるいは数量で示すことはしておりません。

このため生産、受注および販売の実績については、「(1) 経営成績等の状況の概要 ①財政状態及び経営成績の状況 b. 経営成績」における各セグメントの業績に関連づけて示しております。

最近2中間連結会計期間の主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)		当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)	
	金額（千円）	割合（％）	金額（千円）	割合（％）
株式会社アイリスプラザ	72,990	28.7	72,990	29.3

(2)経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間末現在において判断したものであります。

①当中間連結会計期間の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等

1) 財政状態

（資産合計）

当中間連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末比で76,237千円増加し3,499,395千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末比で68,426千円増加し464,553千円となりました。主な要因は、現金及び預金69,960千円の増加であります。

固定資産は、前連結会計年度末比で7,811千円増加し3,034,841千円となりました。主な要因は、投資有価証券の時価評価による30,158千円の増加、保険積立金13,540千円の減少であります。

（負債合計）

当中間連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末比で60,000千円増加し1,685,288千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末比で9,281千円減少し319,201千円となりました。主な要因は、短期借入金10,000千円の減少であります。

固定負債は、前連結会計年度末比で69,282千円増加し1,366,086千円となりました。主な要因は、長期借入金50,945千円、再評価に係る繰延税金負債13,461千円のそれぞれ増加であります。なお、借入金残高につきましては、前連結会計年度末比で43,550千円増加し769,580千円となりました。

(純資産合計)

当中間連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末比で16,236千円増加し1,814,106千円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金21,161千円の増加、土地再評価差額金13,461千円の減少であります。

この結果、連結ベースの自己資本比率は、前連結会計年度末の52.52%から51.84%となり、1株当たり純資産額は前連結会計年度末の504円77銭から509円33銭となりました。

2) 経営成績

(売上高)

売上高は、繊維事業の売上減少などにより、前中間連結会計期間に比べ1.9%減の249,290千円となりました。

(売上原価、販売費及び一般管理費)

売上原価は、棚卸高の減少などにより前中間連結会計期間に比べ3.5%減の157,049千円となりました。

販売費及び一般管理費は、旅費交通費および人件費の増加などにより、前中間連結会計期間に比べ4.5%増の79,178千円となりました。

(親会社株主に帰属する中間純損益)

親会社株主に帰属する中間純損益は、前中間連結会計期間に比べ2,467千円減少し15,660千円となりました。

3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ②キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

b. 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの経営に影響を与える大きな要因としては、「2 [事業等のリスク]」に記載した内容があります。当中間連結会計期間においては、以下となります。

繊維事業につきましては、新型コロナウイルス感染症からのリバウンド需要も一巡する一方で、コメをはじめとする食料品価格の高騰など長期化する物価高により、消費者の節約志向が顕著となりアパレル衣料への購買意欲は低迷したものとなりました。一方で、長期に亘る円安為替は原材料高とエネルギー価格の上昇もあって製品の原価上昇が経営の大きな懸念材料となっております。このような経営環境のなか、当社グループは情報力の強化と環境に配慮した中での事業収益向上を重点課題として事業を推進してまいりました。特に製品販売品目と販売経路については費用対効果の極大化と新しい取組の強化に努めてまいりました。

賃貸事業につきましては、前中間連結会計期間と同様に安定した売上となっております。今後も賃貸物件の適切な管理運営による安定した収入の確保に取り組んでまいります。

②資本の財源及び資金の流動性に係る情報

資金需要

当社グループの事業活動における運転資金需要の主なものとは繊維事業における原材料・製品の仕入および外注加工費用、各事業についての一般管理費等があります。また、設備資金需要としては、繊維事業および賃貸事業における建物・設備の更新のための投資等があります。

財務政策

当社グループの事業活動の維持拡大に必要な資金を安定的に確保するため、内部資金の活用および金融機関からの借入により資金調達を行っております。

4【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

5【研究開発活動】

特に記載すべき事項はありません。

第3【設備の状況】

1【主要な設備の状況】

当中間連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2【設備の新設、除却等の計画】

当中間連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	11,629,000
計	11,629,000

②【発行済株式】

種類	中間会計期間末現在発行 数（株） (2025年4月30日)	提出日現在発行数（株） (2025年7月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,589,000	3,589,000	—	単元株式数 1,000株
計	3,589,000	3,589,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

（ライツプランの内容）

該当事項はありません。

（その他の新株予約権等の状況）

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式総数 増減数（株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減 額（千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金増 減額（千円）	資本準備金残 高（千円）
2023年11月1日～ 2024年4月30日	—	3,589,000	—	100,000	—	122,741

(5)【大株主の状況】

2025年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式（自己 株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
内山 正治	東京都渋谷区	804	22.59
渡邊 峯	東京都渋谷区	491	13.79
森田 昇	埼玉県新座市	357	10.02
内山 伸子	東京都渋谷区	250	7.02
田崎 桂子	東京都渋谷区	241	6.77
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台 3－9	149	4.19
太陽毛絲共済会	埼玉県川口市上青木 5－5－9	134	3.76
持田 一夫	埼玉県川口市	108	3.04
市田 昌子	東京都豊島区	101	2.84
株式会社埼玉りそな銀行	埼玉県さいたま市浦和区常盤 7－4－1	100	2.81
計	—	2,736	76.83

(注) 上記のほか、株式会社証券保管振替機構名義の名義書換失念株式が105千株あります。

(6)【議決権の状況】

①【発行済株式】

2025年4月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 27,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 3,530,000	3,530	—
単元未満株式	普通株式 32,000	—	—
発行済株式総数	3,589,000	—	—
総株主の議決権	—	3,530	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の名義書換失念株式が105,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の名義書換失念株式の完全議決権株式に係る議決権の数105個が含まれております。

②【自己株式等】

2025年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 （％）
太陽毛絲紡績株式会社	埼玉県川口市上青木 5－5－9	27,000	－	27,000	0.75
計	－	27,000	－	27,000	0.75

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1. 中間連結財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

(1) 当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第3号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編および第4編の規定により第2種中間連結財務諸表を作成しております。

(2) 当社の中間財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第3号の上欄に掲げる会社に該当し、財務諸表等規則第1編および第4編の規定により第2種中間財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前中間連結会計期間(2023年11月1日から2024年4月30日まで)の中間連結財務諸表および前中間会計期間(2023年11月1日から2024年4月30日まで)の中間財務諸表について、公認会計士中村 孝氏および新創監査法人による共同監査を受け、当中間連結会計期間(2024年11月1日から2025年4月30日まで)の中間連結財務諸表および当中間会計期間(2024年11月1日から2025年4月30日まで)の中間財務諸表について、新創監査法人による監査を受けております。

なお、当社の監査公認会計士等は次のように異動しております。

前中間連結会計期間および前中間会計期間	公認会計士中村 孝氏および新創監査法人
当中間連結会計期間および当中間会計期間	新創監査法人

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

① 【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (2025年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	81,999	151,960
受取手形及び売掛金	43,856	39,702
商品及び製品	196,261	180,031
仕掛品	105	17,128
原材料及び貯蔵品	65,724	67,944
その他	8,221	7,827
貸倒引当金	△40	△40
流動資産合計	396,127	464,553
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 1,552,770	※1 1,553,012
減価償却累計額	△1,232,406	△1,249,509
建物及び構築物（純額）	320,364	303,503
機械装置及び運搬具	420,743	423,509
減価償却累計額	△381,724	△386,287
機械装置及び運搬具（純額）	39,018	37,222
土地	※1 2,293,314	※1 2,293,314
リース資産	6,686	3,780
減価償却累計額	△6,606	△378
リース資産（純額）	79	3,402
建設仮勘定	848	7,666
その他	31,397	29,588
減価償却累計額	△27,983	△26,762
その他（純額）	3,414	2,825
有形固定資産合計	2,657,040	2,647,934
無形固定資産		
ソフトウェア	1,159	989
無形固定資産合計	1,159	989
投資その他の資産		
投資有価証券	316,553	346,711
保険積立金	47,601	34,061
繰延税金資産	1,295	1,295
その他	3,381	3,849
投資その他の資産合計	368,831	385,917
固定資産合計	3,027,030	3,034,841
資産合計	3,423,158	3,499,395

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (2025年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,763	7,009
短期借入金	※1 10,000	—
1年内返済予定の長期借入金	※1 244,218	※1 246,823
1年内返還予定の受入建設協力金	15,730	14,683
リース債務	94	831
未払金	25,678	27,713
未払費用	45	67
未払法人税等	2,884	327
未払消費税等	※2 9,137	※2 3,905
その他	17,930	17,840
流動負債合計	328,483	319,201
固定負債		
長期借入金	※1 471,812	※1 522,757
受入建設協力金	55,466	48,648
リース債務	—	2,841
繰延税金負債	62,342	71,163
再評価に係る繰延税金負債	546,311	559,773
退職給付に係る負債	11,017	11,048
長期預り敷金保証金	149,854	149,854
固定負債合計	1,296,804	1,366,086
負債合計	1,625,288	1,685,288
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	322,741	322,741
利益剰余金	127,018	135,554
自己株式	△1,456	△1,456
株主資本合計	548,302	556,839
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	193,322	214,483
土地再評価差額金	1,056,245	1,042,783
その他の包括利益累計額合計	1,249,567	1,257,267
純資産合計	1,797,869	1,814,106
負債純資産合計	3,423,158	3,499,395

②【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】
【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
売上高	254,155	249,290
売上原価	162,790	157,049
売上総利益	91,364	92,241
販売費及び一般管理費	※ 75,790	※ 79,178
営業利益	15,573	13,062
営業外収益		
受取利息	0	50
受取配当金	5,267	5,441
為替差益	347	—
助成金収入	—	466
その他	578	478
営業外収益合計	6,193	6,436
営業外費用		
支払利息	3,194	3,196
為替差損	—	0
その他	292	489
営業外費用合計	3,487	3,686
経常利益	18,279	15,813
税金等調整前中間純利益	18,279	15,813
法人税、住民税及び事業税	327	328
法人税等調整額	△175	△175
法人税等合計	152	152
中間純利益	18,127	15,660
親会社株主に帰属する中間純利益	18,127	15,660

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
中間純利益	18,127	15,660
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62,480	21,161
土地再評価差額金	—	△13,461
その他の包括利益合計	62,480	7,699
中間包括利益	80,608	23,360
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	80,608	23,360

③【中間連結株主資本等変動計算書】

前中間連結会計期間（自2023年11月1日 至2024年4月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	100,000	322,741	87,650	△1,456	508,935
当中間期変動額					
剰余金の配当	—	—	△5,342	—	△5,342
親会社株主に帰属する中間純利益	—	—	18,127	—	18,127
自己株式の取得	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	—	—	—	—	—
当中間期変動額合計	—	—	12,785	—	12,785
当中間期末残高	100,000	322,741	100,435	△1,456	521,720

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	174,887	1,056,245	1,231,132	1,740,067
当中間期変動額				
剰余金の配当	—	—	—	△5,342
親会社株主に帰属する中間純利益	—	—	—	18,127
自己株式の取得	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	62,480	—	62,480	62,480
当中間期変動額合計	62,480	—	62,480	75,265
当中間期末残高	237,367	1,056,245	1,293,612	1,815,333

当中間連結会計期間（自2024年11月1日 至2025年4月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	100,000	322,741	127,018	△1,456	548,302
当中間期変動額					
剰余金の配当	—	—	△7,123	—	△7,123
親会社株主に帰属する中間純利益	—	—	15,660	—	15,660
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	—	—	—	—	—
当中間期変動額合計	—	—	8,536	△0	8,536
当中間期末残高	100,000	322,741	135,554	△1,456	556,839

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	193,322	1,056,245	1,249,567	1,797,869
当中間期変動額				
剰余金の配当	—	—	—	△7,123
親会社株主に帰属する中間純利益	—	—	—	15,660
自己株式の取得	—	—	—	△0
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	21,161	△13,461	7,699	7,699
当中間期変動額合計	21,161	△13,461	7,699	16,236
当中間期末残高	214,483	1,042,783	1,257,267	1,814,106

④【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	18,279	15,813
減価償却費	22,269	22,594
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	829	31
受取利息及び受取配当金	△5,267	△5,491
支払利息	3,194	3,196
為替差損益 (△は益)	△347	0
固定資産除却損	54	287
売上債権の増減額 (△は増加)	22,681	4,153
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△5,171	△3,157
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,771	4,245
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△2,534	△4,854
その他	2,120	1,682
小計	52,338	38,500
利息及び配当金の受取額	5,267	5,491
利息の支払額	△3,189	△3,183
法人税等の支払額	△655	△2,885
営業活動によるキャッシュ・フロー	53,761	37,923
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,718	△9,826
無形固定資産の取得による支出	△103	—
保険積立金の積立による支出	—	△201
保険積立金の解約による収入	—	13,841
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,821	3,813
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△30,000	△10,000
長期借入れによる収入	160,000	190,000
長期借入金の返済による支出	△139,328	△136,450
建設協力金の返還による支出	△7,865	△7,865
リース債務の返済による支出	△557	△579
配当金の支払額	△5,342	△6,880
自己株式の取得による支出	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,093	28,223
現金及び現金同等物に係る換算差額	347	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	28,194	69,960
現金及び現金同等物の期首残高	41,167	81,999
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 69,362	※ 151,960

【注記事項】

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社は、太陽テキスタイルサポート(株)であります。

2. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社（太陽テキスタイルサポート(株)）の中間決算日は、中間連結決算日と一致しております。

3. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

…時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

…移動平均法による原価法

② 棚卸資産

商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品

月次移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

…定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2～37年

機械装置及び運搬具 2～16年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

…定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間連結会計期間末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社および連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容および当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

① 繊維事業

当社は、紡毛糸、梳毛糸、毛織物、ニット製品、コート、産業資材、手芸糸の製造および販売を行っております。

これらの商品または製品の販売については、商品または製品の引渡時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されるため、当該引渡時点で収益を認識しております。ただし、商品または製品の国内の販売については、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、出荷時に収益を認識しております。

なお、商品の販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者から提供する商品と、交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

繊維事業に関する取引の対価は、商品または製品の引渡し後、概ね4か月以内に受領しており、当該顧客との契約に基づく債権について、重要な金融要素の調整は行っておりません。

② 賃貸事業

主に当社が保有する商業施設の賃貸および管理業務を行っております。

不動産賃貸収入は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に従い、オペレーティング・リース取引に該当する取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…買掛金（予定取引を含む）

③ ヘッジ方針

為替変動リスク低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

為替予約の締結時に同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので中間決算日における有効性の評価を省略しております。

(7) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動に僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(追加情報)

（法人税等の税率の変更による影響）

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に公布され、2026年4月1日以後に開始する連結会計年度より、「防衛特別法人税」が課されることとなりました。

これに伴い、2026年11月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率を34.09%から34.93%へ変更しております。

この変更により、当中間連結会計期間末における一時差異等を基礎として再計算した場合、繰延税金負債が1,973千円、再評価に係る繰延税金負債が13,461千円それぞれ増加し、その他有価証券評価差額金が1,973千円、土地再評価差額金が13,461千円それぞれ減少いたしました。

(中間連結貸借対照表関係)

※ 1. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (2025年4月30日)
建物及び構築物	207,802千円	196,641千円
土地	1,780,132	1,780,132
計	1,987,934	1,976,773

上記のうち工場財団抵当設定分

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (2025年4月30日)
建物及び構築物	195,914千円	185,613千円
土地	1,582,980	1,582,980
計	1,778,895	1,768,594

担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (2025年4月30日)
短期借入金	10,000千円	一千円
1年内返済予定の長期借入金	167,034	190,061
長期借入金	396,112	469,097
計	573,146	659,158

上記のうち工場財団抵当設定分

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (2025年4月30日)
短期借入金	10,000千円	―千円
1年内返済予定の長期借入金	142,914	149,254
長期借入金	323,872	335,604
計	476,786	484,858

※ 2. 消費税等の取扱い
仮払消費税等および仮受消費税等は相殺のうえ、流動負債の「未払消費税等」として表示しております。

(中間連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
従業員給与	16,477千円	18,329千円
役員報酬	17,640	17,280
支払報酬	7,930	8,199
退職給付費用	1,069	535

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間 (自2023年11月1日 至2024年4月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当中間連結会計期間 増加株式数 (株)	当中間連結会計期間 減少株式数 (株)	当中間連結会計期間 末株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	3,589,000	―	―	3,589,000
合計	3,589,000	―	―	3,589,000
自己株式				
普通株式	27,255	―	―	27,255
合計	27,255	―	―	27,255

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項
該当事項はありません。

3. 配当に関する事項
配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年1月25日 定時株主総会	普通株式	5,342	利益剰余金	1.5	2023年10月31日	2024年1月26日

当中間連結会計期間（自2024年11月1日 至2025年4月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当中間連結会計期間 増加株式数（株）	当中間連結会計期間 減少株式数（株）	当中間連結会計期間 末株式数（株）
発行済株式				
普通株式	3,589,000	—	—	3,589,000
合計	3,589,000	—	—	3,589,000
自己株式				
普通株式（注）	27,255	4	—	27,259
合計	27,255	4	—	27,259

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加4株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
2025年1月23日 定時株主総会	普通株式	7,123	利益剰余金	2.0	2024年10月31日	2025年1月24日

（中間連結キャッシュ・フロー計算書関係）

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 （自 2023年11月1日 至 2024年4月30日）	当中間連結会計期間 （自 2024年11月1日 至 2025年4月30日）
現金及び預金	69,362千円	151,960千円
現金及び現金同等物	69,362	151,960

（金融商品関係）

1. 金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2024年10月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表計 上額	時価	差額
(1) 投資有価証券	315,105	315,105	—
資産計	315,105	315,105	—
(2) 長期借入金（1年内返済予定を含む）	716,030	709,762	△6,267
負債計	716,030	709,762	△6,267

当中間連結会計期間（2025年4月30日）

（単位：千円）

	中間連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券	345,264	345,264	—
資産計	345,264	345,264	—
(2) 長期借入金（1年内返済予定を含む）	769,580	760,848	△8,731
負債計	769,580	760,848	△8,731

- (*1) 「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
- (*2) 「受取手形及び売掛金」、「支払手形及び買掛金」及び「短期借入金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
- (*3) 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の中間連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）は以下のとおりであります。

（単位：千円）

区分	前連結会計年度	当中間連結会計期間
非上場株式	1,447	1,447

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

- (1) 時価で中間連結貸借対照表（連結貸借対照表）に計上している金融商品
前連結会計年度(2024年10月31日)

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券 株式	315,105	—	—	315,105
資産計	315,105	—	—	315,105

当中間連結会計期間(2025年4月30日)

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券 株式	345,264	—	—	345,264
資産計	345,264	—	—	345,264

(2) 時価で中間連結貸借対照表（連結貸借対照表）に計上している金融商品以外の金融商品
前連結会計年度(2024年10月31日)

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金（1年内返済予定を 含む）	—	709,762	—	709,762
負債計	—	709,762	—	709,762

当中間連結会計期間(2025年4月30日)

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金（1年内返済予定を 含む）	—	760,848	—	760,848
負債計	—	760,848	—	760,848

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期借入金（1年内返済予定を含む）

長期借入金の時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間および信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度（2024年10月31日）

(単位：千円)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの	株式	315,105	48,706	266,398
	小計	315,105	48,706	266,398
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの	株式	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		315,105	48,706	266,398

(注) 非上場株式等(当連結貸借対照表計上額1,447千円)につきましては、市場価格のない株式等であることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

当中間連結会計期間（2025年4月30日）

(単位：千円)

区分	種類	中間連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	345,264	48,706	296,557
	小計	345,264	48,706	296,557
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		345,264	48,706	296,557

(注) 非上場株式等(当中間連結貸借対照表計上額1,447千円)につきましては、市場価格のない株式等であることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(2024年10月31日)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(2025年4月30日)

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(2024年10月31日)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(2025年4月30日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(2024年10月31日)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

該当はありません。

2. 連結貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

当社グループは、一部建物の建築材料に石綿を使用した物件を所有しております。当該建物の解体時において、法令の定める方法により石綿を適切に除去する債務を有しておりますが、当該建物については、今後とも適切な維持管理を行いながら、使用を継続する予定であります。従いまして債務の履行時期の見積りが困難であり、具体的な計画に基づかない限り解体時期を見積ることができません。さらに、当該建物の除却費用から、当該石綿の除去に直接関わる費用を区分して見積めることは、困難であります。

これらの理由から、当該債務に見合う資産除去債務は計上しておりません。

当中間連結会計期間(2025年4月30日)

1. 資産除去債務のうち中間連結貸借対照表に計上しているもの

該当はありません。

2. 中間連結貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

当社グループは、一部建物の建築材料に石綿を使用した物件を所有しております。当該建物の解体時において、法令の定める方法により石綿を適切に除去する債務を有しておりますが、当該建物については、今後とも適切な維持管理を行いながら、使用を継続する予定であります。従いまして債務の履行時期の見積りが困難であり、具体的な計画に基づかない限り解体時期を見積ることができません。さらに、当該建物の除却費用から、当該石綿の除去に直接関わる費用を区分して見積めることは、困難であります。

これらの理由から、当該債務に見合う資産除去債務は計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の中間連結貸借対照表計上額および中間連結決算日における時価に、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

中間連結財務諸表「注記事項（中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）3. 会計方針に関する事項（5）重要な収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間連結会計期間末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

該当事項はありません。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社および連結子会社においては、当初の予想契約期間が1年を超える重要な取引がないため、実務上の便法を適用し、残存履行義務に関する情報の記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社グループは、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「繊維事業」および「賃貸事業」を報告セグメントとしております。

「繊維事業」は、紡毛糸、梳毛糸、毛織物、ニット製品、コート、産業資材、手芸糸の製造・販売を行っております。

「賃貸事業」は、不動産の賃貸および管理業務を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益および振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前中間連結会計期間（自2023年11月1日 至2024年4月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	中間連結財務諸表計上額
	繊維事業	賃貸事業	合計		
主要な財又はサービス					
原糸	116,481	—	116,481	—	116,481
アパレル衣料品	14,845	—	14,845	—	14,845
その他	23,277	—	23,277	—	23,277
顧客との契約から生じる収益	154,604	—	154,604	—	154,604
その他の収益（注）	—	99,550	99,550	—	99,550
外部顧客への売上高	154,604	99,550	254,155	—	254,155
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,000	5,400	11,400	△11,400	—
計	160,604	104,950	265,555	△11,400	254,155
セグメント利益	8,607	46,739	55,347	△39,773	15,573
セグメント資産	561,223	2,474,964	3,036,187	505,629	3,541,816
その他の項目					
減価償却費	8,387	13,574	21,962	306	22,269
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,851	—	2,851	175	3,027

（注）その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づく所有不動産の賃貸収入等が含まれております。

当中間連結会計期間（自2024年11月1日 至2025年4月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	中間連結財務諸表計上額
	繊維事業	賃貸事業	合計		
主要な財又はサービス					
原糸	103,255	—	103,255	—	103,255
アパレル衣料品	23,650	—	23,650	—	23,650
その他	22,901	—	22,901	—	22,901
顧客との契約から生じる収益	149,808	—	149,808	—	149,808
その他の収益（注）	—	99,482	99,482	—	99,482
外部顧客への売上高	149,808	99,482	249,290	—	249,290
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,000	5,400	11,400	△11,400	—
計	155,808	104,882	260,690	△11,400	249,290
セグメント利益	10,080	41,893	51,974	△38,911	13,062
セグメント資産	508,808	2,447,073	2,955,881	543,513	3,499,395
その他の項目					
減価償却費	8,410	13,924	22,334	259	22,594
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	13,606	—	13,606	—	13,606

（注）その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づく所有不動産の賃貸収入等が含まれております。

4. 報告セグメント合計額と中間連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
報告セグメント計	265,555	260,690
セグメント間取引消去	△11,400	△11,400
中間連結財務諸表の売上高	254,155	249,290

（単位：千円）

利益	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
報告セグメント計	55,347	51,974
セグメント間取引消去	—	—
全社費用（注）	△39,773	△38,911
中間連結財務諸表の営業利益	15,573	13,062

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

（単位：千円）

資産	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
報告セグメント計	3,036,187	2,955,881
セグメント間取引消去	△39,026	△1,125
全社資産（注）	544,655	544,639
中間連結財務諸表の資産合計	3,541,816	3,499,395

（注）全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社の余資運用資金、長期投資資金（投資有価証券）等であります。

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		中間連結財務諸表計上額	
	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
減価償却費	21,962	22,334	306	259	22,269	22,594
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,851	13,606	175	—	3,027	13,606

（注）減価償却費の調整額は、主にソフトウェアにかかるものであります。

【関連情報】

前中間連結会計期間（自2023年11月1日 至2024年4月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社アイリスプラザ	72,990	賃貸事業

当中間連結会計期間（自2024年11月1日 至2025年4月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社アイリスプラザ	72,990	賃貸事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前中間連結会計期間(自2023年11月1日 至2024年4月30日)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自2024年11月1日 至2025年4月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前中間連結会計期間(自2023年11月1日 至2024年4月30日)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自2024年11月1日 至2025年4月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前中間連結会計期間(自2023年11月1日 至2024年4月30日)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自2024年11月1日 至2025年4月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (2025年4月30日)
1株当たり純資産額	504円77銭	509円33銭

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
1株当たり中間純利益	5円09銭	4円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益 (千円)	18,127	15,660
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する中 間純利益(千円)	18,127	15,660
普通株式の期中平均株式数(株)	3,561,745	3,561,742

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2)【その他】

該当事項はありません。

2 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

① 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年10月31日)	当中間会計期間 (2025年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	62,474	130,557
受取手形及び売掛金	38,935	35,108
商品及び製品	196,261	180,031
仕掛品	105	17,128
原材料及び貯蔵品	64,873	67,025
その他	7,966	7,293
流動資産合計	370,616	437,145
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 1,411,981	※1 1,412,223
減価償却累計額	△1,112,020	△1,127,175
建物（純額）	299,961	285,047
構築物	140,789	140,789
減価償却累計額	△120,386	△122,333
構築物（純額）	20,402	18,455
機械及び装置	420,743	423,509
減価償却累計額	△381,724	△386,287
機械及び装置（純額）	39,018	37,222
工具、器具及び備品	31,397	29,588
減価償却累計額	△27,983	△26,762
工具、器具及び備品（純額）	3,414	2,825
土地	※1 2,293,314	※1 2,293,314
リース資産	—	3,780
減価償却累計額	—	△378
リース資産（純額）	—	3,402
建設仮勘定	848	7,666
有形固定資産合計	2,656,960	2,647,934
無形固定資産		
ソフトウェア	1,159	989
無形固定資産合計	1,159	989
投資その他の資産		
投資有価証券	316,553	346,711
関係会社株式	30,000	30,000
保険積立金	47,601	34,061
その他	3,381	3,849
投資その他の資産合計	397,535	414,622
固定資産合計	3,055,655	3,063,546
資産合計	3,426,272	3,500,692

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年10月31日)	当中間会計期間 (2025年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,654	12,105
短期借入金	※1 10,000	—
1年内返済予定の長期借入金	※1 244,218	※1 246,823
1年内返還予定の受入建設協力金	15,730	14,683
リース債務	—	831
未払金	19,221	20,949
未払費用	45	67
未払法人税等	290	145
未払消費税等	※2 6,766	※2 1,978
その他	18,745	18,756
流動負債合計	325,672	316,340
固定負債		
長期借入金	※1 471,812	※1 522,757
受入建設協力金	55,466	48,648
リース債務	—	2,841
繰延税金負債	62,342	71,163
再評価に係る繰延税金負債	546,311	559,773
退職給付引当金	11,017	11,048
長期預り敷金保証金	149,854	149,854
固定負債合計	1,296,804	1,366,086
負債合計	1,622,476	1,682,427
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	122,741	122,741
その他資本剰余金	200,000	200,000
資本剰余金合計	322,741	322,741
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	2,992	2,653
繰越利益剰余金	129,951	137,060
利益剰余金合計	132,943	139,713
自己株式	△1,456	△1,456
株主資本合計	554,228	560,997
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	193,322	214,483
土地再評価差額金	1,056,245	1,042,783
評価・換算差額等合計	1,249,567	1,257,267
純資産合計	1,803,795	1,818,265
負債純資産合計	3,426,272	3,500,692

②【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
売上高	236,578	231,788
売上原価	139,634	136,001
売上総利益	96,943	95,787
販売費及び一般管理費	83,919	84,661
営業利益	13,023	11,125
営業外収益	※2 6,192	※2 6,423
営業外費用	※3 3,351	※3 3,685
経常利益	15,864	13,863
税引前中間純利益	15,864	13,863
法人税、住民税及び事業税	145	145
法人税等調整額	△175	△175
法人税等合計	△30	△30
中間純利益	15,895	13,893

③【中間株主資本等変動計算書】
前中間会計期間（自2023年11月 1 日 至2024年 4 月30日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
					固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	122,741	200,000	322,741	3,671	98,304	101,975	△1,456	523,259
当中間期変動額									
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△5,342	△5,342	—	△5,342
中間純利益	—	—	—	—	—	15,895	15,895	—	15,895
圧縮積立金の取崩額	—	—	—	—	△339	339	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
当中間期変動額合計	—	—	—	—	△339	10,891	10,552	—	10,552
当中間期末残高	100,000	122,741	200,000	322,741	3,331	109,196	112,528	△1,456	533,812

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	174,887	1,056,245	1,231,132	1,754,392
当中間期変動額				
剰余金の配当	—	—	—	△5,342
中間純利益	—	—	—	15,895
圧縮積立金の取崩額	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	62,480	—	62,480	62,480
当中間期変動額合計	62,480	—	62,480	73,033
当中間期末残高	237,367	1,056,245	1,293,612	1,827,425

当中間会計期間（自2024年11月1日 至2025年4月30日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余 金合計	その他利益剰余金		利益剰余 金合計		
					固定資産圧 縮積立金	繰越利益剰 余金			
当期首残高	100,000	122,741	200,000	322,741	2,992	129,951	132,943	△1,456	554,228
当中間期変動額									
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△7,123	△7,123	—	△7,123
中間純利益	—	—	—	—	—	13,893	13,893	—	13,893
圧縮積立金の取崩額	—	—	—	—	△339	339	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	△0	△0
株主資本以外の項目の当 中間期変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
当中間期変動額合計	—	—	—	—	△339	7,109	6,770	△0	6,769
当中間期末残高	100,000	122,741	200,000	322,741	2,653	137,060	139,713	△1,456	560,997

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	193,322	1,056,245	1,249,567	1,803,795
当中間期変動額				
剰余金の配当	—	—	—	△7,123
中間純利益	—	—	—	13,893
圧縮積立金の取崩額	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	△0
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	21,161	△13,461	7,699	7,699
当中間期変動額合計	21,161	△13,461	7,699	14,469
当中間期末残高	214,483	1,042,783	1,257,267	1,818,265

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式

…移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

…時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

…移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産

商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品

月次移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

…定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 2～37年

機械及び装置 2～16年

(2) 無形固定資産

…定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金および退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容および当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) 繊維事業

当社は、紡毛糸、梳毛糸、毛織物、ニット製品、コート、産業資材、手芸糸の製造および販売を行っております。

これらの商品または製品の販売については、商品または製品の引渡時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されるため、当該引渡時点で収益を認識しております。ただし、商品または製品の国内販売については、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、出荷時に収益を認識しております。

なお、商品の販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者から提供する商品と、交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

繊維事業に関する取引の対価は、商品または製品の引渡し後、概ね4か月以内に受領しており、当該顧客との契約に基づく債権について、重要な金融要素の調整は行っておりません。

(2) 賃貸事業

主に当社が保有する商業施設の賃貸および管理業務を行っております。

不動産賃貸収入は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に従い、オペレーティング・リース取引に該当する取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…買掛金（予定取引を含む）

(3) ヘッジ方針

為替変動リスク低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約の締結時に、同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので中間決算日における有効性の評価を省略しております。

(追加情報)

(法人税等の税率の変更による影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に公布され、2026年4月1日以後に開始する事業年度より、「防衛特別法人税」が課されることとなりました。

これに伴い、2026年11月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率を34.09%から34.93%へ変更しております。

この変更により、当中間会計期間末における一時差異等を基礎として再計算した場合、繰延税金負債が1,973千円、再評価に係る繰延税金負債が13,461千円それぞれ増加し、その他有価証券評価差額金が1,973千円、土地再評価差額金が13,461千円それぞれ減少いたしました。

(中間貸借対照表関係)

※ 1. 担保資産および担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年10月31日)	当中間会計期間 (2025年4月30日)
建物	207,802千円	196,641千円
土地	1,780,132	1,780,132
計	1,987,934	1,976,773

上記のうち工場財団抵当設定分

	前事業年度 (2024年10月31日)	当中間会計期間 (2025年4月30日)
建物	195,914千円	185,613千円
土地	1,582,980	1,582,980
計	1,778,895	1,768,594

担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年10月31日)	当中間会計期間 (2025年4月30日)
短期借入金	10,000千円	－千円
1年内返済予定の長期借入金	167,034	190,061
長期借入金	396,112	469,097
計	573,146	659,158

上記のうち工場財団抵当設定分

	前事業年度 (2024年10月31日)	当中間会計期間 (2025年4月30日)
短期借入金	10,000千円	－千円
1年内返済予定の長期借入金	142,914	149,254
長期借入金	323,872	335,604
計	476,786	484,858

※ 2. 消費税等の取扱い

仮払消費税等および仮受消費税等は相殺のうえ、流動資産の「未払消費税等」として表示しております。

(中間損益計算書関係)

1. 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
有形固定資産	21,665千円	22,345千円
無形固定資産	125	169
計	21,791	22,515

※2. 営業外収益のうち主要なもの

	前中間会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
受取利息	0千円	40千円
受取配当金	5,267	5,441
助成金収入	—	462

※3. 営業外費用のうち主要なもの

	前中間会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
支払利息	3,181千円	3,196千円

(有価証券関係)

前事業年度 (2024年10月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式30,000千円)は市場価格のない株式等のため、時価を記載しておりません。

当中間会計期間 (2025年4月30日)

子会社株式(中間貸借対照表計上額 子会社株式30,000千円)は市場価格のない株式等のため、時価を記載しておりません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる利益を理解するための基礎となる情報は、中間連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第100期）（自 2023年11月1日 至 2024年10月31日）2025年1月28日関東財務局長に提出

(2) 臨時報告書

2025年7月25日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

2025年7月25日

太陽毛絲紡績株式会社

取締役会 御中

新創監査法人

東京都中央区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 松原 寛

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太陽毛絲紡績株式会社の2024年11月1日から2025年10月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2024年11月1日から2025年4月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、太陽毛絲紡績株式会社及び連結子会社の2025年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間（2024年11月1日から2025年4月30日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間連結財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、中間連結財務諸表の中間監査を計画し実施する。監査人は、中間連結財務諸表の中間監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で中間監査意見に対して責任を負う。
監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは中間監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の中間監査報告書

2025年7月25日

太陽毛絲紡績株式会社

取締役会 御中

新創監査法人

東京都中央区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 松原 寛

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太陽毛絲紡績株式会社の2024年11月1日から2025年10月31日までの第101期事業年度の中間会計期間（2024年11月1日から2025年4月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、太陽毛絲紡績株式会社の2025年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2024年11月1日から2025年4月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは中間監査の対象には含まれておりません。